

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1493400087
法人名	株式会社 ウイズネット
事業所名	みんなの家 横浜宮沢
訪問調査日	平成21年3月6日
評価確定日	平成21年4月1日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 21年 3月 14日

【評価実施概要】

事業所番号	第1493400087号
法人名	株式会社 ウイズネット
事業所名	グループホームみんなの家 横浜宮沢
所在地	横浜市瀬谷区宮沢3-21-25 (電話) 045-300-0051

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成21年3月6日	評価確定日	平成21年4月1日

【情報提供票より】(平成 21年 2月 8日事務所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 2月 1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	16人	
職員数	16人	常勤 10人	非常勤 6人	常勤換算 13.0人

(2) 建物概要

建物構造	(木造)造り
	2階建ての (1)階 ~ (2)階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	64,000 円	その他の経費(月額)	16,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 120,000 円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	370 円	昼食	400 円
	夕食	490 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,450 円			

(4) 利用者の概要 (2月8日 現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	5 名	要介護2	10 名		
要介護3	2 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	1 名		
年齢	平均 80 歳	最低	66 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団聖仁会 横浜甞生病院 中川歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは相鉄線三ツ境駅よりバスで15分程度、下車して徒歩3分の場所に在ります。ホームに隣接する神社、玄関前の広い畑地、穏やかな暮らしに十分な環境です。建物の内部は、共用スペースを十分にとっており、開放感があります。設備も浴場の福祉機器を始めとして、高齢者の身体が考慮された物が数々備え付けられています。当ホームの運営法人は、高齢者福祉の分野で数多くの事業展開をしており、認知症高齢者グループについても多数運営しています。当ホームの近くにある系列の2ホームと運営推進会議を共同で開催するなど、同業者として連携しています。ホーム独自の理念の一つとして、「笑顔」を掲げていますが、利用者家族より、「職員が明るく、まとまっているように思えます。」との声が寄せられており、一丸となって理念の実践に取組む職員の熱意が伝わってきます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での主な改善課題として、常勤・非常勤を問わず、研修参加の奨励と機会の確保が挙げられていましたが、業務体制の落ち着きとともに研修制度が活かされてきており、改善がみられます。防災訓練の年間計画の策定と地域住民や消防署との協力体制の確保については、避難に困難を抱える利用者を含む避難訓練の実施と協力体制の確保が未だ不十分な為、状況の困難性は認めつつも、継続して改善課題としています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>2度目となる今回の自己評価についても、各ユニットごとに話し合い、そしてリーダーがまとめるなど、全職員が取組んでいます。災害対策の上で、避難時の備品の必要性など、新たな気付きもありました。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>3ヶ月に1度のペースで開催される会議も2年を経過して回を重ねてきました。構成員は自治会長、民生委員、利用者及び家族、地域ケアプラザの看護師及び担当職員、当法人系列の3ホームの各担当職員です。会議の討議内容は、ホームの活動報告が中心ですが、民生委員よりお花見の絶景ポイントを教えて貰ったり、逆にホーム見学の要請を受けたりしています。また、地域ケアプラザの看護師から、ホームにとって重要な案件である感染症対策についての説明を受ける機会も得ています。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族からの苦情や要望を聞くために、苦情箱の設置や面会時、家族会、そして電話連絡の機会など利用しています。ホームでは解決できない問題については法人へ報告の上、対応を要請し、ホーム内で解決可能な案件は、検討会議を開き対応しています。家族より要望のあった職員の顔写真は、玄関脇の掲示板で見ることが出来ます。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームに隣接する神社の清掃、年2回の防災訓練など町内会の行事に積極的に参加しています。また、ホーム外の施設を借りてお茶の会を毎月開催し、地域との交流に努めています。今では近隣の畑作農家から採れたての野菜を頂く程に地域に溶け込んできましたが、開設3年目に「地域振興係」を新たに設置したのを契機に、日常生活における地域との連携の一層の強化が期待されます。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者・家族の「笑顔」を引き出すためには、チームワークを良くして、まずは職員から「笑顔」を。そして、ホームが孤立しては健全な生活は成り立たない、まずは「地域にホームを知ってもらう」。開設の際、職員全員で考え、掲げたこの二つの理念を現在も大切に、実践しています。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者家族より、「職員が明るく、まとまっているように思います。」との声が寄せられるように、ホーム内は勿論のこと、地域に向けても、新たに「地域振興係」を設置して、理念の実践に日々取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の神社の清掃や防災訓練など、町内会の行事に積極的に参加する一方で、ホーム外の施設を借りて、月に1度のお茶の会を定期的で開催しています。開設してから2年、新たに設置した「地域振興係」を軸に、さらに地域の人々との交流を深めようとしています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価についても、各ユニットごとに話し合ってまとめるなど、全職員が参加しています。この評価を通じて、あまり意識していなかった、地域との関わり合いの大切さに気付くなど意義の理解も深まっています。また、課題についても焦点化が出来、具体的な改善に努めています。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1度のペースで開催される会議も回を重ね、ホームの活動報告が中心ですが、地域ケアプラザ所属の看護師より感染症対策の方法を聞いたり、民生委員よりお花見場所の耳寄りな情報を得たり、また、ホーム見学の要望を受けるなどサービス向上に繋がる情報交換の場となっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の介護保険関連の申請・更新手続きなどを通じて、相談あるいは情報交換をしながら区担当者と連携しています。また、利用者と関係のある担当ケースワーカーとも連絡を取り合っています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、金銭管理報告書とともに「一言通信」にて、本人の様子やイベントの開催案内などを家族に伝えていきます。また、法人が発行する2誌も同封して当ホームの情報を提供しています。家族の訪問の際には、本人の体調や暮らしぶりを報告し、容態急変など緊急時には速やかに連絡して、個々に合わせた対応をしています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「苦情箱」を設置する一方で、面会時や家族会、更に電話連絡の際にも、苦情及び要望を聞き出せる様に努めています。ホーム内で解決できる案件は検討会議で、できない案件は法人にて対応しています。要望のあった職員の顔写真は、玄関の掲示板で見ることが出来ます。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	原則として各ユニットの職員は固定しており、かつ「居室担当制」を採用しています。これは、利用者や職員の馴染みの関係を崩さないよう配慮したものです。異動がある時にも、利用者の不安が大きくなるよう職員間で方策の話し合いがもたれています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人独自の研修制度が確立しており、研修施設も確保されています。研修参加費及び交通費なども支給され、勤務シフトも配慮されています。参加出来ない場合でも、研修報告書・資料などで内容を知ることができます。その他、介護現場でも適切な指導がされています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人で近在の他のホームとの情報交換や連携は勿論のこと、市のグループホーム連絡会によるホーム長を含めた職員の相互訪問実習を行っており、双方の長所などを学ぶことにより、サービスの質の向上を図っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居に際して、利用者の生活歴、身体状況等を職員間で情報の共有を図っています。その上で、帰宅願望など不安を抱える本人に対して、波長の合いそうな他の利用者とのコミュニケーションが上手く取れるように、さり気なく場面設定するなどホームに馴染んでいけるよう配慮に努めています。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>当ホームでは畑仕事や園芸を利用者と共に行なっています。りんごの種を丸ごと埋めて芽が出ないと云っては、共にその失敗を嘆きます。また、お茶の入れ方や食器の拭き方など、家事の知恵を利用者から教わることもあります。こうした利用者との関係性を大切にしています。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>会話でコミュニケーションが取れる方には、積極的に話しかけ、意向や希望を聞いています。上手く表現できない方でも、その表情や態度から思いを汲み取っています。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族との話し合いの場を設けています。職員からの意見や気づきを会議で出し合い、介護計画を作成しています。往診医のアドバイスも取り入れています。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は半年毎に作成していますが、毎月の会議で確認、見直しを行っています。退院後の心身の状態の変化に伴い、計画変更を前提にして、利用者の様子を観察したり、話し合いを進めている事例がありました。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして、看護師が月2回訪問しています。医療面はもちろん、介護面でもアドバイスを受けています。法人内のヘルパー派遣に登録をし、ヘルパーが家族に代わって利用者の通院などの支援を行うこともあります。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関は24時間対応可能となっており、連携も良好に保たれています。入居前からのかかりつけ医への受診にも柔軟に対応しています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の際、「重度化した場合の対応に係る指針」に基づき説明を行っています。心身の変化に伴い、医師のアドバイスを受けながら家族、本人と話し合っています。看取りも視野に入れた方針を共有しながら、利用者にとっての最善を念頭に置いています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ介助時の対応、言葉かけ、声の大きさには特に気を配っています。職員の対応が適切でないとされたとき、管理者はその都度注意、確認を行っています。個人情報の記録等は鍵のかかるロッカーに保管し、更にその部屋に鍵をかけています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の過ごし方に細かいスケジュールは設けていません。利用者の希望には出来る限り迅速に対応できるよう努めています。ちぎり絵を楽しんでおられる方、食事の後片付けをされている方など、思い思いの過ごし方をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は専門の職員が1・2ユニットまとめて行っています。ホットケーキなどおやつを職員と一緒に手作りして楽しんでいます。食事の配膳、後片付けは職員とごやかに行われていました。外食や季節の行事での特別メニューなど食事にメリハリをつける工夫をしています。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1階ユニットの浴室にはパネル型の暖房器具が設置され温度差による身体への負担に配慮しています。機械浴も備えられており2階の利用者も使用することがあります。利用者の血圧、健康状態を確認した上で希望に添えるよう入浴の対応をしています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	レース編み、囲碁、卓球など楽しみごとの支援をしています。職員は、利用者の生活歴の中から、あるいは日々の関わりの中から一人ひとりの得意なこと、楽しみごとなど更にたくさん把握できるよう努めています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や体調を見て散歩に出かけています。散歩に行かれない方はベランダで日光浴を行っています。少しでも外気に触れる環境を作る目的もあり、庭で野菜や花を育てています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の安全確保及び防犯の為、玄関と居室の窓扉は止むを得ず施錠していますが、建物内やベランダは自由に出入りしています。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所単独や消防署の協力を得ての災害訓練を行っていますが、利用者を変えての誘導訓練、地域の方々への協力の依頼など十分とは言えない現状があります。		車イスの方、歩行が不十分な方への対応、2階ユニットからの的確な避難誘導など、夜間も含めた災害に備えての訓練、普段から万一に備える意識も引き続き期待されます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が栄養バランス、カロリーに配慮した献立を作成しています。お粥や刻み食など利用者の体調や嚥下状態にも気を配っています。食事、水分摂取量を記録し、過不足のないよう支援しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間はすべてゆったりと作られています。リビングの一角に畳を敷き、こたつコーナーを設けています。季節感のあるちぎり絵や貼り絵の作品を利用者と作り飾っています。カーテンも春らしいピンクに架けかえただけでした。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾り棚、仏壇、絵画、お気に入りの写真集など、馴染みの品が持ち込まれています。生活習慣に合わせ、畳スペースを設けている利用者もあり、それぞれその方らしい居室になっています。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームみんなの家 横浜宮沢
(ユニット名)	1U
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市瀬谷区
記入者名 (管理者)	渡邊敏子
記入日	平成 21年 2月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域にホームを知ってもらい」、「笑顔」というホーム独自の理念を掲げています。特に「笑顔」の理念にあ人居者や家族だけでなく、その笑顔を生み出す職員全員の笑顔という想いが込められています。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の「必要な人に必要なサービスの提供を」の理念のもと、利用者や家族の意向を取り入れ、ケアカンファレンスにて話し合い、介護計画にて、周知・実践をしています。「笑顔」の理念のもと、実践に向け心温まるケアに日々取り組んでいます。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念をホームに掲示し、家族会で理念に基づいたケア・活動の計画・報告を実践している。運営推進会議では地域の人民代表者、福祉施設の代表者、家族にも参加を呼びかけ、理念に基づいた活動の理解を求めています。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩で近隣の方々に会った際には、挨拶や会議をしています。近くのホームに訪問し交流を交わしたり、月に一度定期的にお茶の会を催し、ホームと住民の方との交流の場の提供と参加を呼びかけています。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の催し物や神社の行事に積極的に参加しています。21年度より、職員で地域振興係を設定し会合や行事の参加をしています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々と良い関係を築いてゆくにはどうしたらよいか、ボランティア等、地域資源の活用について職員会議で話し合っています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価に関して研修を開き、理解に努めました。又、自己評価は全員で行なう事で新たな気付きや改善点がありました		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3つの施設で1つのグループになり、3ヶ月に一度の会議を開き、活動報告・情報の公開を行い、そこでの意見をサービスの向上に活かしています。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターで開催するイベントに参加したり、要介護申請や生活保護関連でケースワーカーと連携をとり、相談しています。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護や青年後見人制度について、研修を受けました。資料を活用し、今後必要としている方に紹介してゆきたいと思います。		職員全体にも理解されるよう会議などで学ぶ機会を持ちたいと思います。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「安全対策委員会」を月一回の定例会として研修等で話し合う機会を設け、利用者1人ひとりに合わせた対応をし、暴力はもちろん言葉での虐待がないように努力しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居契約時や退居時は、管理者または担当者が説明し、理解をして頂いています。また、不安につながると予想された場合など、面談の機会を持って納得いく話し合いを行なっています。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員は話し掛けやすい雰囲気作りに努め、利用者の意見を傾聴し、その都度話し合いの場を持ち、改善に努めています。また、面会時には家族から不安や不満を訴えていないかなど確認しています。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月10日までに、金銭管理と併せて「一言通信」という書面にて、本人のホームでの暮らしぶりや健康状態、イベントなどの様子を家族宛に発想しています。また、体調不良や急変時などには早急に電話連絡するなど個々への対応と報告をしています。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情相談窓口やホーム内に「意見箱」を設置しています。面会時、電話連絡時、家族会などでも不満や意見を聞き出せるようにしています。その対応としては検討会議を開いたり、重要案件については、法人へ報告も上げ、早期解決に向けた態勢が出来ています。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ユニット会議・全体会議を月1回開催しています。又、問題発生時は随時、意見を聞き、反映に努めています。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状況に合わせて、その都度話し合いの機会を設け、早番・遅番の検討も導入しています。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ユニットの職員を固定し、利用者となじみの関係が出来るように配慮しています。また、職員との話し合いの機会を持ち、利用者のダメージについて周知に努めています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内・社外ともに研修のお知らせをファイリングし、希望者はシフトの調整をしています。職員会議を研修の場として活用しています。		法人内外の研修を受け、知識や技術を向上し実践に活用してゆきます。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列のホームの運営者同士が連携を取り、疑問点を話し合っています。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	シフトに関しては、できる限り職員の希望を取り入れ、会議などで意見を聞き、改善に努めています。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	居室担当制、ホームの運営上の係りを決め、責任を持つようにしています。また、職員と共に働き、個々の努力や能力を把握するよう努めています。		職員のケア技術向上の為、外部研修の契励をします。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホームで安心した生活が送れるように話を傾聴し、受け止め、場合によっては家族と連携をとりながら不安やストレスの軽減を図っています。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会時、電話にて話し合いの機会を持ち、家族からの要望を聞くように努力しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族から同段を受けた際は職員間、医療機関との話し合いを持ち迅速に対応できるよう心がけています。場合によっては、福祉サービスの利用を調整しています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時に不安な気持ちを持っている利用者に関しては、なじみの家具を居室に置いたり、他の利用者とのコミュニケーションを図ったり、家族との連絡を頻繁にするなど、不安を取り除き早くホームになじめる支援をします。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に生活する家族という関係を大切にしています。介護が必要な部分は職員がフォローし、利用者からは人生の先輩として様々な助言を受け、お互い支え合う関係を作っています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密に取り、情報を共有する心がけ本人のケアを共に考えるようにしています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者の生活歴等、本人家族から情報を集め、支援に生かしています。ホームでのイベントに家族参加を呼びかけ、利用者との良い関係を保つようにしています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力の元、友人・知人が気軽に面会に来られる雰囲気を大切にしています。なじみの場所への外出、手紙などの交流も大切にしています。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を理解し、テーブル席を考慮しています。難聴などでコミュニケーションが取りづらい利用者については、職員がフォローしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的に関わりを必要とする方が現在はいません。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や動作の中から意向を把握し、希望に関しては、迅速に対応するよう心がけています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の実態調査、家族・本人の話から生活歴を把握に努めています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の申し送り、生活記録・食事摂取量・血圧測定・本人の行動や言動で職員が把握するよう努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族との話し合いの場を設け、本人に合わせて計画を立てています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年に1度、新しい介護計画を作成しています。必要に応じて、医療機関、家族から情報も準備し今後の対応を協議している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や申し送りノートの活用、ケアカンファレンスの記録などで、本人の状態を考え、介護計画に組み込んでいる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望に応じて、家族と電話連絡を取ったり、散歩、園芸活動、外食に行ったりと、訴えがあった際には出来る限り迅速に対応するよう心がけています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署の協力を得て、消火訓練を行ったり、地区センターを利用し、カラオケ、図書の貸し出し、ボランティアによる慰問によるイベントを行なっています。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて事業所または、外部のケアマネジャーと連絡をとっています。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議にて協力を図っています。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望時は、御家族付き添いにてかかりつけ医の外来受診を行なっている。また、24時間体制のサポートを行なっている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>訪問医の判断や、職員の要望で専門医の治療が受けられるようになっています。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>医療連携看護師や往診機関と利用者に関しての情報を共有し、医療面はもちろん介護面に関する相談もしている。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>病院のケースワーカーと連絡を取り合い、状況を聞いたり、面会に行ったりして、帰居の時期を相談しています。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合は、当社の見取りの指針に基づき医師、家族、本人と話し合い、職員と会議し、方針を決めます。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>会議にて職員と話し合い、出来る事、出来ない事を医療機関と相談し、支援に取り組みます。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>介護サマリーにて特記事項やホームでのケアを伝え住み替えても、生活が変わらないよう配慮しています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ケースファイルは、鍵のかかる戸棚にしまっています。居室の小窓には職員手作りの目隠しをつけています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>日々の言葉がけにより、好きなこと、嫌いなことを聞き出すようにしています。コミュニケーションのとりにくい利用者とは、本人とよく話し合い本当の気持ちを聞き、自己決定につなげてゆきます。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者の体調や状況に合わせて生活リズムを変えています。また、利用者のペースに合わせたリズムで生活していただきます。希望には出来る限り、迅速に対応しています。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>訪問理美容による、整髪・パーマ・顔そり等、できるようになっています。また、希望により、毛染めを行なっています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>外食や季節の行事で好みのメニューの提供に努めています。おやつなども職員と一緒に手作りされたり、食事の準備・片付けは利用者と職員で行なっています。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>利用者・家族・医師と相談しながらタバコ・お酒を楽しめる環境作りをしています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄チェック表を利用し、個々の排泄時間を把握しています。また、バット利用であっても、時間を見てトイレ誘導を実施しています。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>バイタルサイン、健康状態を確認した上で、可能な限り希望を取り入れて支援しています。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>21時に消灯をするが、状況によっては、お茶を飲んだり、テレビを観たい会話を楽しんだりしている。眠れないと訴えがある時は、空調の調整、環境整備などを行い、眠れる環境を作っています。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>個々の生活歴の中から出来る事を探し、役割をもって頂くよう、支援しています。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>場合によっては、家族と相談し、洋服を買いに出かけたり、菓子や移動パン屋での買い物をする時は財布から支払いをお願いします。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>散歩の時間をつくったり、ペランダで日光浴をしたり庭で園芸活動など、外気に触れる環境を作っています。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>レクリエーションで花見、夕食を取り入れたり、家族の支援によって、旅行や行きたい場所に出かけられるように配慮しています。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方がいます。希望時には電話が出来る環境を作っている。手紙もご本人にお渡ししています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	笑顔で対応する、お茶を出すなど、個々に気をつけて心地よく過ごせるような環境づくりをしています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「安全対策委員会」での研究、研修の参加者による報告により、実践・行動での抑制だけでなく、言葉での拘束・抑制がないように気を配っています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には防犯上施錠しております。居室、ベランダ等は自由に過ごせる様鍵をかけないケアを実施しています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入室時には、ロック、お名前をお呼びします。常時、利用者の所在場所や様子を把握し、生活記録に記載しています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品、洗剤などは鍵のかかる戸棚に管理し、手洗いの石鹸は洗面所に置き、利用者が自由に使えるようにしていきます。かみそりなどは、利用者により検討し個々に対応しています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	申し送りや会議などで個々の状況を話し合い家具の配置換えなどで事故防止に取り組んでいます。リスクマネジメント研修に参加し、ケアに活用しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応の周知はされているが、訓練は出来ていません。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署・職員間での火災訓練は行なっていますが、入居者の訓練は行なっていません。		車イス利用の方、歩行困難な方の非難対策を話し合い、専門の訓練を受けてゆきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	日々の観察の中から、事故リスクが高い利用者に関しては、本人の意向を踏まえた上で家族と話し合い対策を決めています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一日2回のバイタル測定と排泄状況、本人の訴えなど申し送りにて情報を共有しています。また、異変時は医師の指示のもと対応しています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月一回の会議で薬の確認、変更時など申し送りでの周知、個人記録での確認ができます。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘が続く方などは水分補給、体操をするなど個々に合った対応をしています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々の能力に応じて声掛け、見守り、介助を支援しています。歯科衛生士 1回/W 口腔ケア		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量、水分摂取量を記載、摂取量が少ない方は、食事をずらしたり、水分摂取の機会を増やしたり対応をしています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出後の手洗い、うがいの励行、マニュアルの回覧、書面によるケアの統一を図っている、「安全対策委員会」より感染予防対策の研修報告を受け、実施しています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	水周りの掃除や布巾・まな板の消毒を行い冷蔵庫の中に賞味期限切れのものがいないか整理をしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関にはあまり物は置かず、すっきり見えるようにしています。入居者と共に花を植えたり、季節の飾り付けをしたり、雰囲気作りをしています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の掲示(職員手作り)をしたり、大きなカレンダー(職員手作り)などで、月・日を解りやすくしています。こたつや畳で居心地良さを工夫しています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで仕切りを作り、共用スペースの中にくつろげる空間を作っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や家具・寝具・家庭で使用していた小物・使いなれたものを持ってきて頂き、本人が居心地よく過ごせるように工夫しています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除の際は、窓を開け、換気をしている。天気の良い日は、換気口を昼すぎまで開け新鮮な空気を取り入れている。換気扇にて常時換気・温度調節は居室ごとや入居者の好みに応じてこまめに対応しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援に向けて家具の配置を考慮したり、お茶を自由に入れて飲めるスペースを設けています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の能力に応じて、声かけや介助を行なっています。利用者を受容するようにつとめ、混乱や失敗がないよう配慮しています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	イベントで庭を利用したり、畑や花・野菜を植えて利用者が収穫する楽しみを感じられるようにしています。また、ベランダで日光浴や月見等の活動をしています。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者、1人ひとりのニーズに合ったケアができるよう、柔軟な対応をしてゆきます。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームみんなの家 横浜宮沢
(ユニット名)	2U
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市瀬谷区宮沢
記入者名 (管理者)	渡邊敏子
記入日	平成 21年 2月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の行事(町内会の盆踊り)に積極的に参加したり、ホームの行事を地域の方しお知らせしています。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者、家族の意向を取り入れ、ケアカンファレンスにて話し合い、周知・実践をしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念を提示し家族会で説明しています。地域の行事に参加するときは、御家族にも参加を呼びかけています。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩で近隣の方々に会った際、挨拶や会話をしています。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の催し物、近隣の神社の行事などに参加できる機会を大切にしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々とのよい関係を築くためにはどうすればよいか、職員等で話し合いを進めています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価に関して理解に努め、職員全体で話し合いの機会を設けています。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3つの施設で1つのグループになり、3ヶ月に一度の会議を開き活動報告・情報の公開を行い、そこでの意見をサービスの向上に活かしています。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	要介護申請や生活保護関連でケースワーカーと連携をとり相談しています。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	活用していません。		制度についての勉強会に積極的に参加し学ぶ機会を持ちたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や研修で虐待防止について考える機会を設け、暴力はもちろん言葉での虐待がないように努力しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に管理者・担当者が丁寧に説明しております。悩みや不安を聞かせていただき、理解するようにしています。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の意見を傾聴し、話し合いの場をもち、改善に努めています。申し送りやカンファレンス等で話をしています。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の状態や金銭管理・健康状態等は毎月、月末～月始にかけて、お手紙を送らせて頂いております。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホーム内に意見箱を設置しています。また、家族会や面会時などの機会に伺い、会議で話し合い対応しています。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>各階ユニット会議を月に1回開催しています。又、全体会議も実施しております。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者様の状況に合わせて、職員のローテーションを組み、柔軟に人員確保しています。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>各階の職員を固定し、入居者様となじみの関係が出来るよう配慮しています。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内、社外ともに研修のお知らせをファイリングし研修の参加を促しています。		グループホーム職員として学ぶべき研修はグループホーム必須研修として参加できるよう調整していく。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	弊社における運営者同士が連携を密に取り、疑問点等を話し合っている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	シフトに関してできる限り職員の希望を取り入れています。又、会議などで意見を聞き改善に努めています。親睦会も実施しております。		管理者による個人面接等の実施。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	居室担当制を導入し、職員が責任を持つようにしています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前にお話をさせていただく機会を設けてします。又、その中で信頼関係を深めています。傾聴し、受け止め、家族とも連携を取り不安の軽減を図っています。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所後には、面会時や電話等で話し合いの機会を持ち、要望を聞くように努力しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の電話や来所された際、本人様の状態等を把握し、場合によっては医療機関と話し合いの機会を持ち、迅速に対応できるよう心がけている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居されてから、不安が強かったり、慣れないという方も居ますので、他の入居者様とのコミュニケーションを図ったり、家族との連携を頻繁にとるなど早くホームになじめるような支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する側・される側という関係ではなく、共に生活する家族という関係を大切にしています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とは良い関係を築くため、連絡を密に取り情報を共有するよう心がけており、本人のケアを共に考えるようにしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者様の生活歴、本人・家族から情報を集め、支援に活かしています。ホームの行事に家族が参加できるように入居者様との良い関係を保つようにしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方達にも気軽に会いに来られる雰囲気を大切に配慮しています。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う方同士でのコミュニケーションは取れています。難聴の方の場合、スタッフが間に入りフォローをしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後もご家族様の相談等には協力させていただいております。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人様の希望・要望に関しては早めの対応を心がけています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の実態調査表や面会時に情報を家族・御本人から伺い、共有しています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常生活の中での申し送り、生活・食事量血圧測定等・行動・言動を含め把握するよう努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護支援専門員を十分な話し合い・アセスメントにより作成し家族の同意を得ています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しを行っています。必要であれば医療機関・家族からの情報も準備し今後も対応を協議している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化等見逃さないよう記録に残しています。計画の実践状況についても記録に残しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望に応じて、家族との連絡を取ったり散歩に出たり、訴えに対し出来る限り迅速に対応するように心がけています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を通し、地域の方の協力を得ています。消防署の協力を得て消火訓練も実施しております。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	退所する際には、他のサービスを利用するための支援を行っております。その際、ホームでの状態等、様子を情報提供しています。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議にて協力を図っています。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携の内科医へ移行していただいております。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居者様の状態変化等を御家族様に随時報告をし、必要であれば専門医への受診を促しています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携介護師や往診機関と情報を共有し、健康管理などをしていただいています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された際は、面会に何回か行くようにしています。また病院の方、ご家族様とも状況把握、相談に努めています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	御家族様との話し合いは、面会時に行っているが、医師との話し合いは出来ていない。		医療関係・医師とのターミナルケアについての話し合いの場をもうけていく。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	会議の場で職員と話し合い、出来ること、出来ないことを医療関係とも相談して支援に取り組んでいる。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	介護サマリーにて特記事項やホームでのケアを伝え提供しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>1人ひとりプライバシーの配慮をしている。他施設や、医療機関等への個人情報を用いる際、御家族様の同意を保っています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>御本人様の生活ペースに合わせ、好きなこと、嫌いなことを聞き、その人らしく生活が送れるように支援しています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者様の体調や状況に合わせて、生活のリズムを変えている。利用者様の希望には出来る限り早目に対応するように心がけています。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>訪問理容院に来ていただいております。希望によっては毛染めを行っています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の支度、配膳、下膳等利用者様と職員で行っています。また、誕生日や季節行事などお好みのメニューを提供しております。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>その人らしく生活していただくため、状態を見ながら楽しんでいただけるよう支援しています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄チェック表を使用し、一人ひとりの排泄パターンの把握をしています。トイレでの排泄や排泄への自立に向けた支援をしています。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>バイタル・健康状態を確認した上で、可能な限り希望を取り入れて支援をしている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの睡眠パターンを把握し、1日の生活リズムを作っています。</p>		
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>個々の生活歴の中から出来ることを探し、役割をもって頂くよう、支援をしている。</p>		<p>スタッフ1人ひとりが個々の生活歴の把握が出来るよう周知徹底していく。</p>
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>場合によっては、家族と相談しお金を所持している方もおられます。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>散歩の時間を作ったり、ベランダで日光浴をしたりと外気に触れる環境を作っています。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>その日の体調をみて、みんなで出かけたり、又、家族の方と話をさせていただき、外出の機会を作っています。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話が出来る環境を作っています。手紙も御本人にお渡しをしています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の設定はしていません。笑顔で対応する・お茶を出すなど、個々に気をつけてゆっくりと過ごせるように配慮しています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行事の抑制だけでなく、言葉での抑制がないように職員が気を配っています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には防犯鍵しております。居室、ベランダ等は自由に過ごせる様、鍵をかけないケアを実施しています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入室時にノックをしたり、常時利用者様の所在場所や様子を把握するように努め、生活録に記載している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬・刃物について注意の必要な物品については保管場所があります。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故発生後は事故報告書の記入をしています。また対応策・再発防止のため、カンファンレンス・会議で話し合いを行っています。緊急対応マニュアルに添って対応していません。		災害時について地域の方たちとの話し合いの場を持つ。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応は周知されていて、又、対応マニュアルに添った対応をしています。訓練は出来ていない。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議等で災害時には地域の方の協力が必要であると話しています。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	日々の観察の中から事故のリスクが高い利用者様に関しては、家族と話し合いの機会をもち、対応策を決めています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一日2回のバイタル測定と排泄状況、本人の訴えなどを申し送りにて情報を共有している。又、異変時には医師の指示のもとに対応をしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録で用法・容量が確認できるようにしています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘気味の方が居る場合、適度な運動、多めの水分摂取に心がけ支援し自然排泄を促すようにしている。医師への相談もしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの実施を行っており、週1回歯科衛生師による口腔ケアも行なっております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事・水分摂取量を記載し、1人ひとりの嚥下等の身体機能に合わせた調理方法をしています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ホーム内の消毒。手洗いうがいの実施。又、感染症対応マニュアルに添って対応しています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	水周りの掃除や布巾・まな板の消毒実施。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関にあ物を置かず、すっきりと誰もが出入りしやすい環境づくりを心がけております。庭に花や作物を植え、収穫し、季節感を配慮しています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や行事の手作り作品を飾り、季節感を出していません。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座り、共有スペースの中にくつろげる空間を作っています。縁側に長椅子を置いて息抜きが出来る環境を作っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使用している、本人にとって馴染みのある物などを持参されておられます。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除の際に窓を開け、換気をしています。冷暖房に関しても温度調整は居室ごとにこまめに行っています。		
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室などへ手すりの設置をしてあり、自立を促しています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の能力に応じて、声掛けや介助を行っています。受容するようにつとめ、混乱や失敗がないように配慮しています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外回りには洗濯干し場があります。庭には畑に花や野菜を植えて利用者様が収穫する楽しみを感じられるようにしています。縁側で日向ぼっこをするスペースもあります。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

季節が感じられるような行事・レクを企画し利用者様に楽しんで過ごしていただけるよう努力しています。